

5T-3

視覚障害者支援の全国点字図書館 ネットワークシステムの構築

加藤 慶* 下村 有子** 水野 舜*

*金沢工業大学

**金城短期大学

1. はじめに

視覚障害者が図書を借りる際は、最寄りの点字図書館に依頼をする。その図書館に希望する図書がない場合、図書館職員は大量の全国目録を調査し、図書を所蔵している図書館より、借り受け、障害者に貸し出す。各点字図書館の蔵書は自館製作の図書がほとんどのため相互貸借と呼ばれる上記の制度が非常に重要である。しかし、全国目録には1年前以上のものが多く、その内容も完成された図書のみである。そこで、我々は、完成図書・製作中図書データをセンターで一括管理し、全国の図書データを即時に検索できるデータベースと検索システムを構築した。視覚障害者はパソコン通信を用いて、24時間検索可能となった。このシステムについて詳しく述べる。

2. システムの概要

システムは図1のように、センターと全国にある各点字図書館と利用者から構成される。センターには、各点字図書館の完成図書ならびに製作中図書に関するデータが集められている。これらは、データ項目に何らかの変更があった時点で逐次、図書館よりセンターに送られてくるので、データベースには常に最新の情報が蓄えられていることになる。

利用者は、パソコン通信を用いてセンターの検索システムを使用し、希望する図書の所在を調べ、

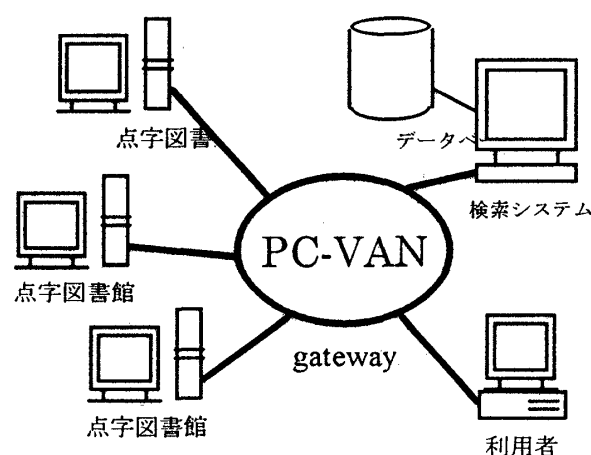


図1. システム概要

それをもとに最寄りの図書館からその図書を借りることができる。

ハードウェアは、センターがUNIXマシンで、各点字図書館がPC-9801シリーズ、IBMシリーズのパソコンのどちらかを選択する。利用者のハードウェアは、パソコン通信を利用できるものならば機種は問わない。

3. システムのソフトウェア構成

ソフトウェアの構成は、図2のように、図書館システム、データ管理システム、検索システムの3つに分かれる。

各点字図書館は、図書館システムを用いて、図書の自館製作や完成図書の購入などによって発生する完成図書・製作中図書データの入力、更新、削除などを行う。このとき、変動のあったデータは、更新用ファイルとして自動的に記録されているので、適宜センターにそれを転送する。

センターでは、データ管理システムが、全国各地から送られてきた更新ファイルをもとに、更新

Braille Library Network System for Visually Impaired Persons

Kei Kato*, Yuko Shimomura**, Shun Mizuno*

*Kanazawa Institute of Technology

**Kinjo College

用の完成図書・製作中図書データベースを更新する。これは、1日ごとに検索用のデータベースと交換される。また、検索システムが、パソコン通信を用いた各個人の問い合わせに対して、完成図書・製作中図書に関する情報の提供を行う。

4. システムの特長

このネットワークシステムの特長は以下のとおりである。

- ・視覚障害者が、最新の図書情報を、個人で、好きな時間に、容易に調べることが可能となった。
- ・入力した自館の完成図書・製作中図書のデータは、図書館業務として利用することができる。また、図書館からも検索システムを利用できるので、全国目録を図書館ごとに用意する必要がなくなった。

5. 終わりに

このシステムにより、視覚障害者は全国の最新の図書情報を容易に知ることができるようになった。今後は、より使い易くするため、システムに改良を加えて行くつもりである。

また、視覚障害者の図書館職員もいることを考慮して、音声合成装置の利用など、図書館システムの視覚障害者への対応も考えている。さらに、利用者と図書館職員の手間を軽減するために、電子メールによる貸出依頼を行えるように検討中である。

なお、この研究は財団法人三菱財団の研究助成の一環として行っている。

参考文献

[1] 水野, 下村: 視覚障害者職員のための点字図書館システム, 第 15 回感覚代行シンポジウム, 1989.
 [2] 下村, 荒川, 水野: 点字図書, 録音図書の着手図書情報システム, 第 18 回感覚代行シンポジウム, 1992.

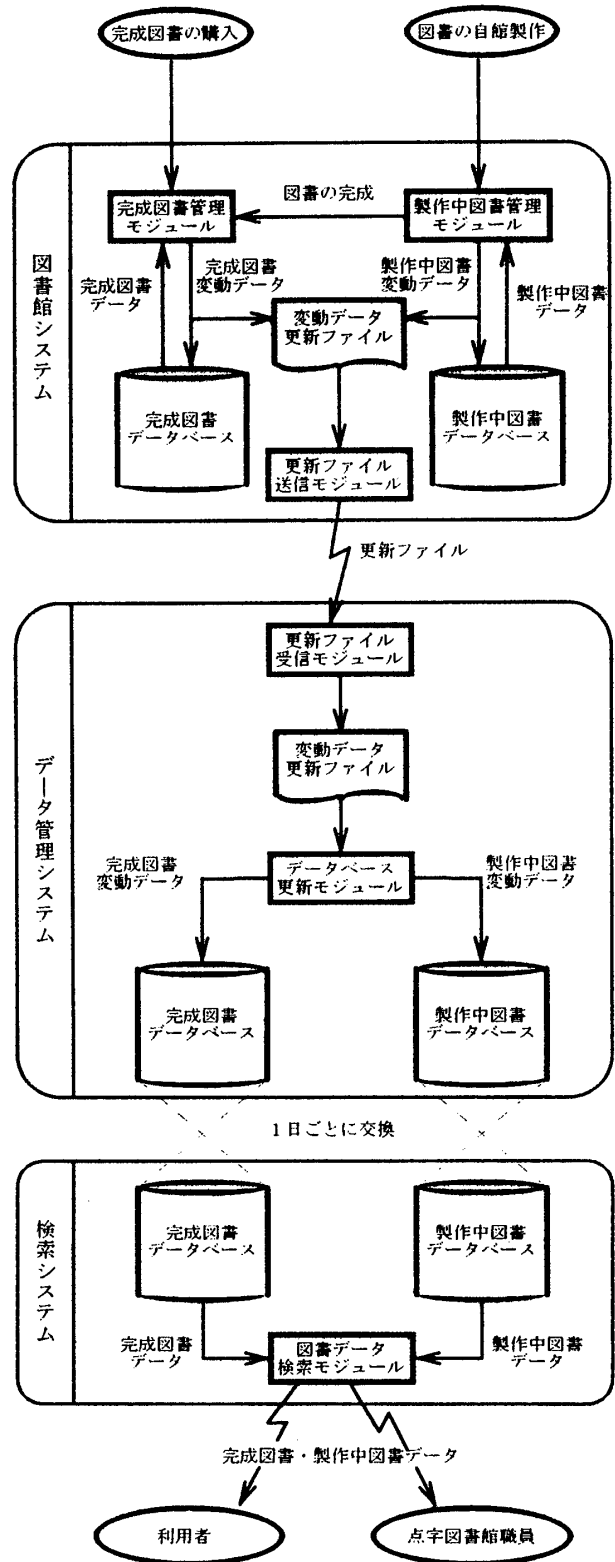


図2. システムのソフトウェア構成